

三鷹市立第六小学校 令和8年度【国語】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		<p>【現状】</p> <p>○ひらがなの学習について、筆圧・大きさ・字のバランスに気を付けながら取り組むことができた。</p> <p>○音読については、姿勢・口形・声の大きさに気を付けながら取り組むことができた。</p> <p>○物語の学習では、動作化などを通して、物語の世界を楽しむことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>○撥音・拗音・促音などの文字の表記、「は・を・へ」などの助詞の使い方、句読点の使い方について苦手意識を感じている児童が多い。</p>	<p>◎2学期から作文の指導を定期的の実施し、文字の表記の仕方や句読点の使い方などを継続的に指導を続ける。</p> <p>○カタカナ・漢字の学習でも、引き続き文字の大きさバランスに気を付けながら丁寧に字を書く意識を高めさせる指導を進める。</p> <p>○物語の読解をより深めるために、動作化に加えて小グループでの学び合いなどを増やし、児童間の言語活動を通して学びを深められるようにする。</p>
第2学年	<p>【成果】</p> <p>○自分の考えをまとめる時間を確保したことで、自分の考えをもつことができるようになった。</p> <p>【課題】</p> <p>○平仮名や片仮名、既習の漢字の定着に差がある。</p> <p>○順序だてて文章を書くことに苦手意識がある児童が多い。</p>	<p>【現状】</p> <p>○新出漢字の練習について、意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>○物語文や説明文を意欲的に読み、自分の考えを伝え合うことができる児童が多い。</p> <p>【課題】</p> <p>○正しい平仮名や片仮名、既習の漢字を文章の中で書く力について、苦手意識がある児童が多い。</p> <p>○句読点や鍵カッコ、段落の使い方を理解し、順序だてて文章を書けない児童が多い。</p>	<p>◎句読点や鍵括弧、段落の使い方など、文章を読み返す視点を指導する。ペアで文章を読み合い、自分たちで間違いに気付き、直す力を育む。</p> <p>◎新出漢字に取り組む際、読み方・書き順・字形・熟語等を練習することで文中で活用できるようにする。</p> <p>○定期的に漢字の小テストを行い、間違えた漢字は宿題で取り組み等、保護者と協力して漢字の定着を目指す。</p>
第3学年	<p>【成果】</p> <p>・週に1回の作文の宿題を継続的に続けることで、句読点や鍵括弧の使い方、はじめ中終わりの文章の構成など文章力は向上した。</p> <p>・新出漢字160文字は、すべて学習した後、何度も復習テストを行い、定着を図ることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・全体的に漢字・作文の学力は向上したが、定着が難しい児童も見られた。個別に指導する時間の確保が課題。</p>	<p>【現状】</p> <p>○話し合い活動では、自分の意見を伝えたり、友達の話の聞いたりすることがよくできる。</p> <p>○物語文、説明文共に読み取ることがよくできている。</p> <p>【課題】</p> <p>○新出漢字の学習に意欲的に取り組む児童とそうでない児童の二極化が起きている。</p> <p>○既習漢字を使って文章を書くことに対して苦手意識がある児童が多い。</p>	<p>○物語文の学習では、児童同士で意見を交換する機会を多く用いて、自分の思いを言語化する機会を意図的につくる。</p> <p>◎定期的に漢字の小テストを実施する。実施前に、範囲を伝え復習する機会を設ける。単語のみにならないよう、文章中に出てくる言葉の小テストも行う。</p> <p>○毎週、平仮名と片仮名の復習プリントを宿題で出し、字形を確認する機会を取り入れる。</p>
第4学年	<p>【成果】</p> <p>○物語文や説明文の読み方を学び、既習の知識を活用して、新たな文章の読解に向かえる児童が増えた。</p> <p>【課題】</p> <p>○テストに対して漢字の定着は見られたが、日常的に活用していく習慣は付けられていない。</p>	<p>【現状】</p> <p>○考えの根拠を文章を基に考え、意欲的に読みに取り組むことができる。</p> <p>○グループでの話し合い活動に意欲的に取り組み、友達の考えから学びを深める姿が見られた。</p> <p>【課題】</p> <p>○自分の考えを書く時に、苦手意識がある児童が一定数いる。</p> <p>○漢字の習熟が二極化しており、学び方が定着していない児童もいる。</p>	<p>○授業の中にペアやグループ活動等の考えを話す場機会を多く設定し、自分の考えを表現する経験を多く重ねる。考えた内容を書くことに繋がられるように、文章の構成やメモなどの指導を行い、書くことへの補助ができるようにする。</p> <p>○毎週の小テストにて、小テストに向けての学び方を学級で確認する場を作り、多様な学び方を紹介することを通して児童にあった学び方が定着できるようにする。</p>
第5学年	<p>【成果】</p> <p>○国語に必要な力を理解し、既習の知識を学習に生かすことができる児童が増えた。</p> <p>○段落の関係を意識して文章を読むことができる児童が増えた。</p> <p>【課題】</p> <p>○漢字を日常的に使う習慣は付けられていない。</p> <p>○児童の学習の定着に差ができています。</p>	<p>【現状】</p> <p>○文章がより抽象的になったことで、説明文・物語文ともに読解を困難とする児童が増えてきた。</p> <p>○友達と意見を交換することで、新しい考えに気付いたり、自分の考えを深めたりしている。</p> <p>【課題】</p> <p>○内容や読み取りについていけない児童のモチベーションが下がってしまう。</p> <p>○教科書に書いていないことを想像したり考えたりすることが難しい。</p> <p>○既習、新出の漢字を日常的に使うことが難しい。</p>	<p>◎読解の際には、教師、友達との交流を多くすることで、どのように考えればよいかを理解できるようにする。繰り返し練習することで、自分でも考えをもてるようにする。</p> <p>○既習事項の確認や、視覚的に情報を伝える工夫をして、学習を苦手と感じる児童も「できた!」と感じられるようにする。</p> <p>○引き続き漢字テストを行い、知識の定着を図る。</p>
第6学年	<p>【成果】</p> <p>○ペアでの交流など友達と意見を共有しながら自分の考えをもたせる。</p> <p>○文章構成のアウトラインを示し具体的に自分の考えを書くようにする。</p> <p>【課題】</p> <p>○前学年までに学習した漢字も復習できるような文章題を練習していくことで既習漢字の定着を図る。</p>	<p>【現状】</p> <p>○ペアやグループとの交流を通して、盛んに自分の考えを説明したり、様々な考えに触れたりし、考えを深めようとする姿が見られる。</p> <p>【課題】</p> <p>○物語のテーマや筆者の主張に対する自分の考えをもつ際、どこからそう考えたか、根拠を明確にしようとしていない児童が多い。</p> <p>○情報と情報を関連付けながら文章を読んだり、意見文を書いたりする力に大きな差が見られる。</p>	<p>◎文章や資料を基に自分の考えをもつ言語活動を一年を通して繰り返し設定する。その際、「なぜそう考えたのか」根拠を複数の叙述から見付けたり、自分の体験と結び付けたりすることを通して、根拠を明確にできるようにする。</p> <p>◎課題解決に必要な情報を比較・分類しながら選んだり、情報と情報を関連付けながら活用したりする学習を設定し、目的に応じて情報を整理・活用する力を身に付けさせる。</p> <p>○語彙や漢字を身に付けさせるために、朝の学習時間などを活用して何度も復習する機会を設けたり、意味を調べてどのような文章で活用することができるか考える学習を設定したりする。</p>